

各地の自然災害で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。神様の慰めと助けがありますように、お祈りしております。

教会からのオススメの一冊

「憎しみを越えて」

ドナルド・M・ゴールドスタイン
キャロル・アイコ・ディシエイザー・ディクソン [共著]
藤原祥隆 [訳] (いのちのことば社)

今回は平和を取り上げた一冊「憎しみを越えて」をご紹介します。アメリカ人宣教師ジェイコブ・ディシエイザーの体験談です。彼は、太平洋戦争でB25爆撃機の乗組員でした。真珠湾攻撃によって大きな被害をもたらした日本に対して、激しい憎しみを覚えていた彼は、自ら志願して、日本本土爆撃の任につきました。そして、名古屋を爆撃した後、彼を乗せた機は燃料切れになり、脱出せざるを得なくなりました。日本の占領地域に飛び降りた彼らは、日本軍の捕虜となりました。何日も食事を与えられないまま、厳しい尋問を受けた末、悪名高い捕虜収容所に入れられました。劣悪な環境と、看守たちの乱暴な待遇、そして、いつ処刑されるかわからない不安の中、彼らの心の中には、憎しみだけが溢れていました。

ある時、一冊の聖書が差し入れられました。この聖書との出会いが、ディシエイザーの心を変えました。聖書をむさぼるように読む内に、彼はキリストの救いを受け取ったのです。それからの彼の様子は一変しました。看守たちに笑顔で話しかけ、丁寧に接す

るように心がけました。少しずつ看守たちの態度も変わり、穏やかになっていきました。

やがて終戦を迎え、彼らは救出されて母国に戻ることができました。そのとき、ディシエイザーの胸の中に、もう一度、今度は宣教師として日本に行きたいという熱い願いがありました。その願いは叶い、彼は妻と子どもを連れて、再び日本へと赴きます。そして、日本の人々にキリストの愛と平和を伝え始めました。

彼の働きは人々の心を動かしていきました。かつて憎しみ合っていた看守たちとも再会しました。驚くことに、彼らもクリスチャンとなっていたのです。そして、さらに劇的な出会いがありました。真珠湾攻撃の総大将だった人物、淵田美津雄でした。淵田は、敗戦後にキリスト教と出会い、牧師になっていました。かつて敵同士で憎しみ合った二人は、キリストを通して、赦し合い、受け入れ合うことができたのです。

世界は今も、国と国、人と人が憎しみ合い、傷つけ合っています。けれども、神様の愛に触れ、キリストを信じる者は必ず、憎しみを越えることができます。赦し合うことによって、平和を実現することができるのです。



Question 17 教会によせられた質問にお答えします。

映画などを見ていると、よく教会堂でひざまずいてお祈りをしているシーンがありますが、お祈りって何ですか？

お祈りは、ひとことで言うなら、神様との対話です。と言っても、直接神様の声が聞こえてくるわけではありません。自分が求めていることや悩みを、神様に打ち明けるのです。すべてを知っておられる神様は、私たちが祈る前から、私たちの求めをご存じなのですが、実際に言葉に

出して祈ることによって、自分が何を求めているのかはよりはっきりするのです。祈る場所は、教会だけではなく、家でも、道を歩いている時でも、どこでもいいのです。神様は真実な方ですから、私たちの祈りを聞いて、導いてくださいます。

宝塚栄光教会 牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com https://www.takara-eikou.com



教会HP 礼拝動画 希望のダイヤル

礼拝 毎週日曜日
10:30~11:40

希望のダイヤル (聖書のお話)
0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。

わたしたちは世界平和統一家庭連合(旧・統一協会)、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。



真の平和はキリストから

8月は、戦争や平和について考える機会が多くなります。私は戦後生まれで、戦争の体験はありませんが、今も世界のどこかで戦争が行われていると思うと、胸が痛みます。

以前、沖縄に行く機会が与えられて、沖縄戦の悲惨さを見聞きしたとき、戦争体験は、これからも語り続けられていかなければならないことを、痛感しました。

世界の平和は、誰もが願うことです。そのために、人類はあらゆる努力をしてきました。しかし、未だに世界から戦火は絶えません。大国が軍縮の方向に向かった時期がありますが、やはり核保有国が“核抑止論”を盾に、自国の核保有を正当化しようとする傾向は変わっていません。世界平和への道は、遠いのでしょうか。

聖書にこう書かれています。「実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し…。」(エペソ人への手紙2章14節)

本当の平和は、イエス・キリストから来る

ものです。キリストは、どこまでもきよい神と、どこまでも罪深い私たちとの間の架け橋になってくださいました。私たちは、一人の例外なく、罪のために滅び行く者です。しかし、神は私たちが救いたいと思い、ひとり子キリストを十字架におつけになりました。罪のない神の子キリストは、私たちの身代わりに十字架で死なれたのです。

私たちが自分の罪を認め、神の前に悔い改め、キリストの十字架を信じるなら、誰でも罪が赦され、神と和解させていただくことができます。平和の君であるキリストは、私たちの内の罪という隔ての壁を打ち壊して、神との平和をもたらすお方だったのです。

私は若いころ、反戦運動に没頭し、デモに参加したりチラシを配ったりしたことがあります。しかし、真の世界平和は、人間の造り出すムーヴメントやイデオロギーによって実現しないことを知りました。本当の平和は、このキリストによる救い、つまり神との平和を私たち一人ひとりが、いただくことから始まっていくのではないのでしょうか。



ツリガネニンジン ― 日本原産の山野草 ―

猛暑が去れば 山野は秋支度に向かっていく

この頃 ツリガネニンジンの薄紫色の花が見られる

ツリガネニンジンは 北海道から 本州 四国 九州 琉球諸島まで
広く分布する多年草

直立した茎を折ると 白い乳液が出るのが特徴である

若芽は 山菜として とても美味しいそうだ

ベルのような花を 下向きにして咲かせる

淡い青紫色 他に 白色もあるそうだが

草むらに溶けてしまいそうな 花の色だ

宮沢賢治の作品に たびたび出てきた花が ツリガネニンジンである

賢治は 故郷岩手県の山々と植物を深く愛して

ツリガネニンジン 「釣鐘草 (ブルーベル) の花」と呼んで

美しさを称えていた

時は進み 外来植物に覆われたり 除草剤をかけられたりして

数が減っている この頃である

その後 わたしが見ていると 見よ 開かれた門が天にあった

そして ラッパが響くようにわたしに語りかけるのが聞こえた

あの最初の声があった

「ここへ上って来い この後必ず起こることをあなたに示そう」

ヨハネの黙示録4章 (聖書)